

2019 年度 SPring-8 ユーザー協同体 (SPRUC) 特別総会 議事録

日時：2020 年 1 月 11 日 (木) 12 時 00 分～13 時 00 分

場所：ウイנקあいち大ホール

出席者：78 名

プログラム

1. 開会挨拶

報告事項

2. 施設報告

3. 第 9 回評議員選挙結果

4. 行事幹事報告

4.1. 行事開催状況

4.2. SPring-8 シンポジウム 2019 開催報告

4.3. 第 2 回 BLs アップグレード検討 WS の開催計画

4.4. SPring-8 シンポジウム 2020 開催計画

4.5. 第 3 回 SPring-8 秋の学校開催報告

5. 会計幹事報告

5.1. SPring-8 シンポジウム 2019 決算

5.2. 2019 年度 SPRUC 予算執行状況

6. 利用委員会報告

6.1. 研究会開催状況

6.2. 分野融合型研究グループ

6.3. 第 5 期研究会募集

7. Science Promotion Board (SPB) の設置

8. その他

連絡事項

9. 今後の予定

議題：

1. 開会挨拶

SPRUC 水木会長、理研放射光科学研究センター石川センター長、高輝度光科学研究センター雨宮理事長の順で挨拶があった。水木会長からは、SPRUC の運営への協力依頼ならびに第 2 回 BLs アップグレード検討 WS 開催の案内があった。石川センター長からは、SPring-8 の高度化に向けた第 2 回 BLs アップグレード検討 WS などの理研、JASRI、SPRUC の連携した取り組みへの協力依頼を含む挨拶があった。雨宮理事長からは、SPRUC には予算的脆弱性、低い会員意識の中での運営などの難しさはあるものの、次期計画等ある中で、全てのユーザーを代表する位置付けの SPRUC、施設者理研、登録機関 JASRI の連携がより重要であり、SPRUC の活動に期待しているとの趣旨の挨拶があった。

報告事項

2. 施設報告

高輝度光科学研究センター山口常務理事から、「SPring-8/SACLA の安定な運転と利用研究成果の最大化をめざして」という題目で施設報告が行われ、設立経緯、設立目的、申請課題審査等

を含む事業内容や業務の法的な位置付け、事業収入、職員数、利用者支援に向けた放射光利用研究基盤センターの新設を含む組織、経営方針等の JASRI の概要が説明された。また成果の公開非公開と費用負担の関係等を含む SPring-8 と SACLA の利用制度やそれぞれの施設の利用状況の説明があった。さらに SPring-8 に関する文科省の中間評価結果についても報告があり、共用開始後 20 年を経過しても最先端学術研究やイノベーション創出に必須のツールとして産学官で幅広く活用されていることや産業利用の割合が諸外国と比べて高いことなどの概要説明に加え、今後の発展や研究成果の最大化、産官学共用による利用促進、人材育成と国民理解の醸成などについての指摘事項とこれらに対する分析や産官学コーディネート機能の充実などの指摘に対する取り組みが紹介された。最後に 2020B 期 SPring-8 利用研究課題の募集の予告、SPring-8「新分野開拓利用」研究グループの募集について説明があった。この報告に対して会場から質問等はなかった。

3. 第 9 回評議員選挙結果

初井選挙管理委員長から、問題なくウェブ投票が行われた事、並びに当選者が報告された。

4. 行事幹事報告

4.1. 行事開催状況

田中行事幹事から、共同主催の行事である「SPring-8 シンポジウム 2019」と「第 3 回 SPring-8 秋の学校」が開催されたことが報告された。

4.2. SPring-8 シンポジウム 2019 開催報告

田中行事幹事から「SPring-8 シンポジウム 2019」の開催日時、開催地、各種委員会委員長名、シンポジウムならびに懇親会参加者数、シンポジウムのテーマ等の概要の報告があった。また SPring-8/SACLA 利用者情報誌に詳しい報告記事が掲載されていることも報告された。「パネルディスカッション」のセッションについて詳しく報告があり、パネリストとモデレータ名、パネルディスカッションの目的、「BL の再編」と「SPring-8-II の光源性能を活かした研究」という二つの議題のそれぞれでの討論内容について説明があった。また、半年の間隔で交互に開催される BLs アップグレード検討 WG と SPring-8 シンポジウムで継続した情報共有と意見交換を継続したいとの発言があった。

4.3. 第 2 回 BLs アップグレード検討 WS の開催計画

田中行事幹事から開催日時、開催場所、開催趣旨について報告があった。具体的な開催趣旨として「第 1 回 WS や SPring-8 シンポジウム 2019 の議論、技術開発動向、BL アップグレードの具体的なプラン、検討事項を共有し、BL アップグレードに向けた議論を継続する」という事が説明され、日程の確保と参加の依頼があった。

4.4. SPring-8 シンポジウム 2020 開催計画

田中行事幹事から開催計画として、開催日時、開催場所、組織委員長等について報告があった。

ここまでの行事報告に対し、会場からの質問等の有無を確認したが無かった。

4.5. 第 3 回 SPring-8 秋の学校開催報告

大和田行事幹事から、参加要件のある夏の学校より対象者を拡大している秋の学校の特徴、プログラム構成、第 2 回に比べた参加者の増加、社会人からの費用徴収の実施について報告があった。グループ講習内容の設定に SPRUC の研究会が貢献したことが述べられ、引き続いての協力依頼があった。

第 3 回 SPring-8 秋の学校開催報告に関し会場からの質問等は無かった。

5. 会計幹事報告

5.1. SPring-8 シンポジウム 2019 決算

西堀会計幹事から、資料に沿って収支が報告された。

5.2. 2019 年度 SPRUC 予算執行状況

西堀会計幹事から、資料に沿って予算と 2019 年 12 月 27 日付の執行状況が報告された。

会計幹事報告に関し会場からの質問等は無かった。

6. 利用委員会報告

6.1. 研究会開催状況

原田利用幹事から、研究会開催状況が例年通りであることが報告された。分野融合に資する合同研究会、施設に対する要望を検討する研究会も開催されている事が紹介された。

6.2. 分野融合型研究グループ

原田利用幹事から、2019A 期で終了した「ナノデバイス科学」課題は研究会に移行するかを検討する段階にあること、「実用」課題については 2 期目にあることが紹介された。

6.3. 第 5 期研究会募集

有馬利用委員長から、募集スケジュールの他、SPring-8-II 等の高度化に資する今後の BL 再編に関する議論の場の設定や、予測される利用分野への展開、計測技術への要望、新規ユーザーを開拓するための方策等の議論を研究会活動に求める利用委員会からの 4 項目の提案・勧告について説明があった。また研究会は今後、要望書の提出などで JASRI にユーザーとしての要請や意見を述べる機会が多くなるので、施設側の方を研究会の代表にしない方が良いとの意見が述べられた。

7. Science Promotion Board (SPB) の設置

水本会長から、学术界、産業界の区別なく、SPring-8 で取り組むべきテーマ・課題について議論し、実際の研究実施課題に反映させるといった SPB の目的やボードメンバーが示された。具体的に議論する項目として分野融合のテーマと各々のテーマの取りまとめに当たる方の人選の進め方等が想定されることも述べられられた。まず、キックオフミーティングを第 2 回 BLs アップグレード検討 WS の後に開催し、具体的な議論が行われることになることが紹介された。

この報告について会場から質問等は無かった。

8. その他

8.1. 「HAXPES 共用ビームライン計画」についての SPRUC 研究会」開催案内

藤原庶務幹事から、学会期間中の 12 日の昼休みに開催される「HAXPES 共用ビームライン計画」についての SPRUC 研究会」に関する案内があった。この研究会が、BLs アップグレードワークショップと SPring-8 シンポジウムのパネルディスカッションの流れを受けたユーザー側と施設側の意見交換をする場であり、今後のユーザーと施設の間の議論の先導的な例として分野外の方にも紹介したいとの意図が案内を行う理由であると説明された。

8.2. 木村次期会長挨拶

BL 再編や SPring-8-II 計画、東北放射光の建設など変革期にある SPring-8 のユーザーの懸念の払拭に貢献できるよう、施設とユーザーのコミュニケーションが円滑に進む環境として SPring-8 シンポジウムや BLs アップグレード WS 等を通して進めて行く努力をするという趣旨で挨拶があり、会場は拍手で応じた。

連絡事項

9. 今後の予定

藤原庶務幹事から 2020 年 9 月までに予定されている活動について紹介があった。